

校長室だより

学校教育目標「学びを生かす子供」

八代市立龍峯小学校

校長 村嶋 博史



R3,8,26

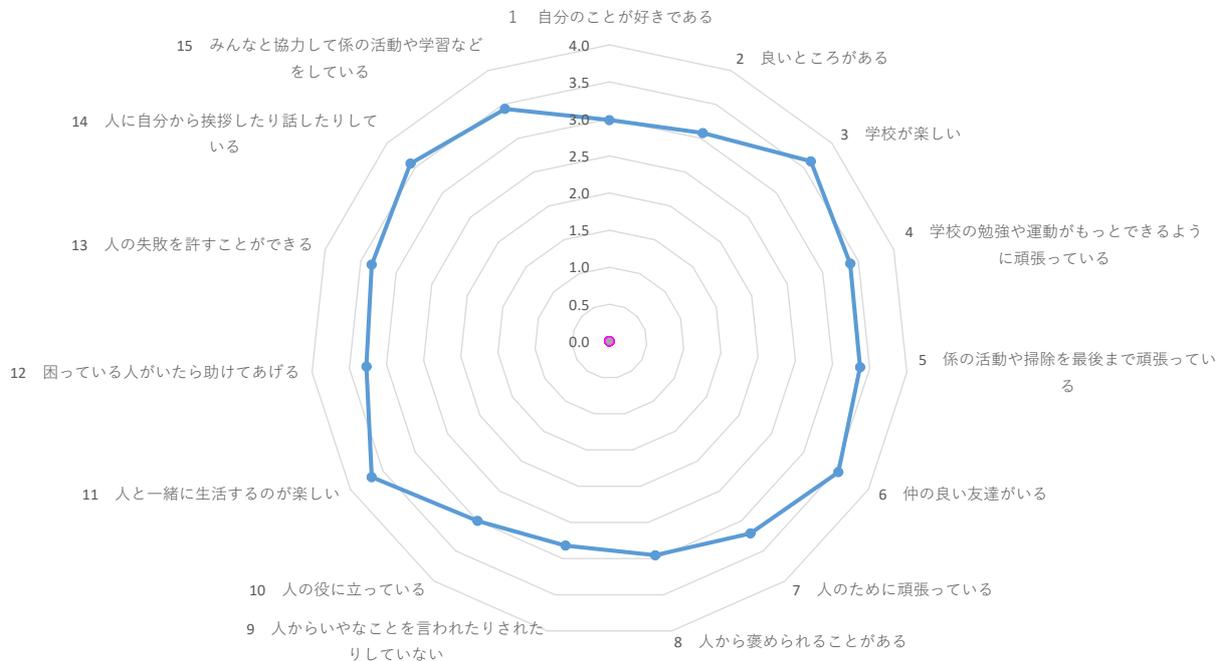
NO,17

自己有用感に係るアンケート結果から

本校の目指す子供像は、「自己有用感をもち、主体的・協働的に行動する龍峯っ子」です。自己有用感が高まると、子供たちは、他者や集団との関係の中で、自分に自信をもって生き生きと生活ができるようになります。そして、この感覚をもつことが、様々な活動への主体的・協働的な行動に繋がる、引いては中学進学後の活躍に繋がると考え、昨年度から自己有用感の育成に学校総体で取り組んでいます。

しかし、その取り組みの評価が難しかったことから、今年度は「自己有用感の見える化」ということで、子供たちのアンケート調査（裏面参照）の結果をもとに、評価・改善していくようにしました。下記は、その結果（学校全体）をレーダーチャート（子供たち自己評価（4段階評価）の平均値を項目別に表示）に表したものです。

自己有用感に係るアンケート結果【学校全体】 第1回調査



【 考 察 】

全体的には、肯定的な回答（「とてもそう思う」と「そう思う」の合計）の84.6%が、否定的な回答（「あまりそう思わない」「全く思わない」）の15.4%を大きく上回りました。

項目別に見ますと、「3 学校が楽しい」「6 仲の良い友達がいる」「11 人と一緒に生活するのが楽しい」「14 人に自分から挨拶したり話したりしている」が平均3.5以上と高い評価であったのに対し、「1 自分のことが好きである」「2 よいところがある」「7 人のためにがんばっている」「8 人からほめられることがある」「9 人からいやなことを言われたり、されたりしていない」「10 人の役に立っている」が平均3.2以下で低い評価でした。

要素別に見ますと、「自分自身に関すること（存在感）」が平均「3.3」、「自分と他の関わりに関すること（貢献）」が平均「3.5」と高い評価に対し、「他に関すること（承認）」が平均「3.1」と低い評価でした。

ここで見てきました課題の克服のために、学校では、特に、子供たちに自分が承認されているという感覚をもたせるために、「子供をよく見て、その子供に応じてほめます」（認め・褒め・励まし・伸ばす）や「子供同士が認め合う場を設定するなど、人間関係づくりを支援します」。その他、存在感をもたせるために「子供の話をじっくり聴いたり、子供に話しかけたりします」、また、貢献している感覚をもたせるために「一人一人に活躍の場を与えて、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせます」

ご家庭でもお子様の様子を見ていただき、できなかったことができたときや思いやりのある行動をしたとき、お手伝いをしたときなどにいっぱい褒めてあげてください。